

令和元年度 山口コアカレッジ 自己評価表

1. 学校の教育目標

ITの変化に対応できる専門力を身に付け、
社会や職場に貢献できる有為な人材を育てる。

2. 本年度に定めた重点的に取り込むことが必要な目標や計画

- 1 生き抜く力と人間関係力をもった芯の強い人材の育成
- 2 資格取得指導を中心軸にした専門教育の充実
- 3 職業意識の高揚と納得のいく就職の実現
- 4 きめ細かい学習指導と生活指導の徹底

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標 (適切…4 ほぼ適切…3 やや適切…2 不適切…1)

評価項目	評価	前年
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3.8	3.9
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.5	3.6
・学校の理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか	3.0	3.2
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.4	3.5

① 課題

人間関係力を身に付ける機会が少ない。交流の機会が少ない。
学生に教育方針や目標が十分に伝わっていない。
先端技術を追うのは難しい。

② 今後の改善方策

学校行事や授業などいろいろな場で学生に教育方針や目標を伝え、意識化させる。
大学とは異なる専門学校よさを目標にする。教職員全員が常に教育方針、目標を意識して仕事をする。
教員は学生と意識的に話す機会をもつ。
卒業生を招いて講演をしてもらう。
授業でのペアワークやグループ活動を増やす。

③ 特記事項

教育目標は明確で科に対応したカリキュラムである。
教育方針や目標が目につきやすい場所に掲示されており、教員も学生も意識している。
教育目標や重点目標、各教科の目標は毎年見直しを図り、教職員には明確に示している。
学生便覧に教育方針が記載されて、年度初めのガイダンスで説明があり、分かり易い。
各教科の教育目標は毎年時代のニーズに合わせ、より高いレベルになるように改善をしている。

「専門能力育成指針」を作成し、それを基にカリキュラムを作成している。
進化の激しいIT分野に対応できる基礎基本を身に付けさせることが大切である。
「オープンキャンパス&体験入学」に参加した高校生や保護者に指導方針や目標を伝えて、入学を勧めている。
学校は業界の大まかなニーズに対応している。

専門技術の習得は他校に劣らない。

(2). 学校運営

評価項目	評価	前年
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.8	3.8
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.8	3.8
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.6	3.6
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.4	3.4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.4	3.4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.5	3.5
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.8	3.8
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.2	3.1

① 課題

課題

業務の効率化を図るために情報システムが整備されているが、十分ではない。業務が一人の教員に任されている。病気など何かあった場合に業務が滞る。規定やマニュアルの見直しと更新
業務の効率化と情報共有

② 今後の改善方策

各業務の主担当と副担当の連携を密にする。業務担当を複数人で行う。業務改善を図る姿勢を常にもつ。HPで情報発信をどんどんしていく。

③ 特記事項

「教育目標及び学校目標」を達成する手立てとして「具体的活動目標」を全教職員が共通理解して、教育活動や学校運営を行っていることが定着してきている。教員が自己目標シートを作成し、それに基づいて教育活動をしている。HPを通じて、学校の活動や情報をタイムリーに発信している。

(3). 教育活動

評価項目	評価	前年
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.7	3.8
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.5	3.5
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.6	3.5
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.3	3.2
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.2	3.3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシ	3.2	3.2

ップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか		
・成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.9	3.7
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.8	3.8
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.6	3.6
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.6	3.6

① 課題

学習意欲に差がある。(やる気のない学生がいる。)
成績評価の仕方(基準)がどのようになっているのか分からない。達成度が確認できない。
成績(テストの結果など)の説明責任がある。シラバスに明確に示す。
教員の生活指導力の向上
活力と人間関係力のある人材の育成
3年時の授業内容が薄い。実践的な科目が少なく、仕事に向けて自信をもちづらい。
IT・ビジネス系のインターンシップの実施
学習内容と業務の違いを聞きたい。
学生全員が授業ペースについていけないところがある。
90分間は集中が続かない。60分で授業数を増やす。

② 今後の改善方策

学生に教育理念などをいろいろな場で話す必要がある。
教員の資質向上を組織的に計画的にする必要がある。
シラバスとの関係性を可視化した体系表を作成し、学生に公開する。
専門分野で仕事をしている人(特に卒業生)からの講話も必要である。
病院と薬局実習の前に卒業生からの話を聴く。
自治会活動を通して、人間関係力を身につける指導をする。
学生どおしで教えあうことも必要である。

③ 特記事項

目標とする資格はカリキュラム上で明確に示している。
目標とする資格の取得をサポートできるカリキュラムになっている。
目標とする資格が分かりやすく、多くの資格が取得できる。
近年、1年次から情報の国家試験に意欲的に取り組む学生が増えている。
各科目の特性に応じた評価基準の設定が必要である。
「専門能力育成指針」を年度初めのオリエンテーションで詳しく説明した。
限られた授業時間の中で学生にとって何が必要かを見極めることが大切である。
新しい技術の授業への導入がなされている。
業界全体の動向と県内企業の状況を正しく認識する必要がある。
医療ビジネス科における山口コ・メディカル学院各科との交換授業は視野が広まった。
特別編成授業の効果は大きい。
各分野での専門性の高い教員がいるので、校内で相互研修があるとよい。
「全国技能五輪」や「全国ものづくり競技大会」において優勝や入賞、高度情報処理試験の合格、医療事務の連続表彰など、成果や実績が出ている。

(4) 学修成果

評価項目	評価	前年
・就職率の向上が図られているか	3.5	3.6
・資格取得率の向上が図られているか	3.7	3.7

・退学率の低減が図られているか	3.2	3.5
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握 しているか	3.1	3.1

① 課題

学生一人ひとりの専門性と能力に見合った求人の開拓
単に卒業時の就職率よりも、納得のいく就職と定着率が大事である。
本校の専門と異なる分野に就職内定をして納得している学生がいる。
卒業生の状況を知るための組織的な仕組みの確立
退学者の減少のために個別指導を重ねているが、現実逃避による退学者がいる。
退学者が思っていたより多いことに驚いた。(令和元年度6人)
簡単な資格を多く取得しても企業は評価しない。資格は数よりもレベル・質である。
就職活動で分からないことが多い。指導が遅く感じる。
仕事に対する意欲や自立心がなく、就職活動をしない学生がいる。
就職内定後、資格取得に意欲をなくしている学生がいる。
資格取得をした後、その内容を忘れないようにする。

② 今後の改善方策

コース選択指導の充実
課題をもった学生の個別指導の充実
難易度の低い資格を多く取得するのではなく、上位資格の取得を目指す。
早めに就職内定をした先輩から、今後のアドバイスを直接聞けたらよい。
各分野の卒業生による講話
一人ひとりに応じた就職支援を粘り強く続ける。
行事の参加やグループ活動を促し、対人関係力を強化する。
学生生活の中で行動の範囲を広げる。
グループ活動を多くして、孤立する学生を出さないようにする。
保護者を交えた三者懇談をする。

③ 特記事項

全体指導と個別指導により資格取得と就職に効果を上げている。
元年度は高度情報3人、応用情報9人、基本情報28人（過去最高）の取得者があった。
学校規模の割には非常に多く、教育の成果が現れている。
学生一人ひとりが納得のいく就職をさせることが大切である。
自分が本当に必要な資格を取得し、自信をもって就職活動に挑んでいる。
卒業生がよく訪問していて、そこから得た情報を私たち学生に共有してくれていることは、自分たちにとってプラスになっている。
学習内容が仕事で役立つ例を示すことで、学生は目的意識をもって勉強をするようになってきた。
求人票は校内のどのパソコンからでも閲覧できるようになっている。
教員は就職に対して意識が低い学生に対してさまざまな指導を重ねているが、就職活動をしない学生がいた。
チューターが親身になってくれて助かります！
医療ビジネス科では、医療事務関係の検定試験にほぼ全員が合格をしている。きめ細かい教育の成果が現れている。
個に応じた指導体制により、高度な資格に挑戦する学生が増えてきた。
面接練習をすることで合格に繋がることが多い。
就職対策での自己診断やスーツの着こなし指導は効果的である。

(5). 学生支援

評価項目	評価	前年
------	----	----

・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.7	3.7
・学生相談に関する体制は整備されているか	3.6	3.6
・学生に対する経理的な支援体制は整備されているか	3.8	3.7
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.3	3.2
・学生の生活環境への支援は行われているか	3.5	3.4
・保護者と適切に連携しているか	3.3	3.3
・卒業生への支援体制はあるか	2.9	2.9

① 課題

専門学校における適切で適度な就職支援体制の確立
 学生の健康管理、生活環境への支援と指導
 就職に対する意欲の低い学生への指導
 企業説明会参加後の報告や情報交換を活かしていない。
 体調が悪い時に気軽に休める場所が欲しい。保健室があるとよい。
 保護者との連携が少ない。
 学生と教員が個人相談をする個室がない。

② 今後の改善方策

支援体制の見直しと周知徹底
 本校で学んだ専門知識や技術が生かせる地元企業の開拓
 企業や卒業生の講話などを通して、人材のニーズについて知る機会を増やす。
 就職試験先が未定でも面接練習をするべきである。
 学生と密な人間関係を築く。
 一つ目のエントリーを半強制的にやらせる。
 1年に1回保護者面談をする。

③ 特記事項

学生一人ひとりに保護者と連携をしながら細かい支援と指導をしている。
 それでも退学者が毎年数人出るのは残念である。
 欠席の多い学生には早めに対応し、保護者にも連絡をしている。
 個に応じたきめ細かい就職支援を行っている。
 全体指導と個別指導を効果的に実施している。
 個に応じていていねいにきめ細かく対応しているが、限界もある。
 学校は全ての面において、適切に支援をしている。限りなく支援をするのがよいことではない。学生の年齢から考えれば、自ら判断して責任ある行動をすることも大切である。
 教員は就職活動に関する学生の情報を共有化しており、全員で対応している。
 学費の分納制度など、経済的に支援する制度が整備され、有効に機能している。
 各種奨学金制度を1/3の学生が利用している。
 卒業生が相談し易い環境を作っている。卒業後の来校が多い。
 「遠隔地生サポート制度」により月5千円支援をしており、遠距離通学の学生は助かっている。
 学校では健康診断等を実施しているが、その結果に応じて学生が対応すべきである。
 学生の年齢ともなれば、健康は自己管理するべきである。
 集団と個別指導を時と場合で分けているのは良い。
 卒業生や在校生が相談しやすい環境である。
 卒業しても相談に来やすい学校である。
 健康管理や生活環境の整備は学生自身が気にかけるべきと考える。

特待生の適用審査制度を変えたことにより、優秀な志願者が増加した。
 卒業生からの相談も多い。
 卒業生の現状把握制度を整備した。
 教員に相談がしやすい雰囲気があるので助かっている。
 個別指導が充実しているので助かっている。
 学生一人ひとりと面談を繰り返し、早めの対応をしている。
 喫煙場所をなくしたことは良かった。

(6). 教育環境

評価項目	評価	前年
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.4	3.5
・学校教育の場として先端技術の導入がある程度なされているか	3.5	3.4
・防災・侵入者に対する体制は整備されているか	3.0	3.0

① 課題

学生の人数が増えてきており、全学生が集まる教室が手狭になっている。
 ロッカーや下駄箱が混雑する。
 2階への階段が一つしかなく混雑する。
 合同教室はパーティションの開閉や机・椅子の移動が大変である。
 教室の換気が必要である。インフルエンザが流行してしまった。
 空気が入れ替わらない。
 ロッカーが廊下の突き当たりであり、混雑する。
 不要な備品の思い切った廃棄
 防災計画の定期的な見直しと防災訓練の実施
 合同教室にスピーカーがあると良い。

② 今後の改善方策

校舎の増築
 階段を広げる増やす。
 換気するという意識を高める。
 防災計画を見直し、意識を高める。
 学生一人ひとりが教室や設備を綺麗に使うように心掛ける。
 防災対策の資料を年に1回は読み、確認をする。
 机と椅子を軽くて移動させやすいものにする。
 1階にもロッカーを設置する。

③ 特記事項

最先端のコンピュータが多く、勉強しやすい環境である。
 ペッパーくんやVR、ドローンなど最新のものがたくさんある。
 学生一人ひとりに安全かつ高性能な機器があり、不自由なく勉学に励むことができた。
 今後も先端機器に迅速な対応をしてください。
 コンピューターはいつでも使えて、自分個人のもの不要であるし、常に先端技術を取り入れている
 施設設備は定期的にメンテナンスを実施し、機器の入れ替えを計画的に行っている。
 人型ロボット (Pepper)やVR技術など最新の設備が多く導入されている。
 教室使用時は前後のドアは鍵を開け、避難できるようにしている。
 いつも最新のコンピュータが使えるので助かっている。
 学校でコンピュータが使いやすく、家で使いにくい学生が助かっている。
 校内外がいつもきれいに整備されている。
 サロンの天井に送風機を設置したことにより、空気の流れがよくなり、温度差が低く

なった。
校舎が建設後30年以上経過してきたので、エアコンの入れ替え、防水塗装などを計画的に実施する必要がある。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価	前年
・学生募集活動は、適正に行われているか	3.4	3.5
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.5	3.4
・学納金は妥当なものとなっているか	3.0	3.0

① 課題

教育成果、専門性が高いことを「見える化」する工夫が必要
地元での知名度の向上
医療ビジネス科の入学生の減少

② 今後の改善方策

情報産業界と連携して魅力ある職のPR
「オープンキャンパス&体験入学」を時期により3年生と1,2年生に分けることを検討する。

③ 特記事項

学校や卒業生の良いの評判が口コミで伝わり、学生が集まるようになってきた。
学校の良い評価により、卒業生の兄弟姉妹が入学している。
ほとんどの入学生はオープンキャンパス&体験入学に参加をしており、本校の教育方針はある程度理解している。そのため退学者が少ない。
入学前のオープンキャンパス&体験入学で教育方針を理解しているので、募集において、高い専門性と地元就職の実績を伝えている。
近年、学ぶ意志の乏しい志願者がおり、1割程度の不合格にしている。
本校のありのままの状況と進学するに当たっての心構えを伝え、募集をしている。
個別の問い合わせや相談に対する体制がある。
山口市との公設民営であるので、学納金は他校より安く設定している。
ライフステージの視点から本校への進学の意義を伝えている。
学費減額制度が活用し易い
HPの情報発信や山口新聞の記事掲載は増えている。
オープンキャンパス&体験入学やフェアで手伝っている学生の言葉が効果的である
遠隔地サポート制度があり、遠くからの学生に効果的である。

(8). 財務

評価項目	評価	前年
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.8	3.8
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.7	3.7
・財務について計画監査が適正に行われているか	3.9	3.9
・財務情報公開の体制整備はできているか	3.6	3.6

① 課題

学校の活性化に向けた効果的な予算編成
学生への還元を考えた予算執行

③ 特記事項

地元会計事務所により財務監査を行い、HPで公開している。
借入金はなく、財政基盤がしっかりしている。
主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握している。
年度予算は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっている。
予算は計画に従って妥当に執行されている。
学校のお金は学生から集めた金であるという意識をもって学校経営をする。

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価	前年
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.8	3.8
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.4	3.4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.8	3.7
・自己評価結果を公開しているか	3.9	3.9

① 課題

個人情報保護に対する意識の高揚と具体的な対策
法令遵守に対する意識の更なる高揚
時代に応じたセキュリティの強化

② 今後の改善方策

事例に基づいた研修の実施
セキュリティー対策の強化

③ 特記事項

毎年、自己評価に基づき、教職員で協議し、改善を行っている。
法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされている。
自己評価は平成25年度から実施し、公開している。
外部からの不正アクセス等を監視する機器を導入した
個人情報の保護はセキュリティー対策よりも情報に携わる人間の意識の問題である。
「NO残業DAY」の推進など働き方改革に取り組中である。
組織として勤務状況の改善の方策を実施している姿勢を感じた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

【教職員】

ここ数年、学生数は150人を超え、経営的には安定をしている。これから更に教育の質を高めることが大切である。
「地方の小さな専門学校である」が、教育が充実しており、成果も出始めている。口コミで評判が繋がり、志願してくる者が増えた。
本校は教育方針、教育目標及び目標能力レベルを毎年見直しを行い、より高い教育へと改善されている。
教育方針や目標を明確化したことにより、目指すべき方向や手段が明確になった。
教育目標や学校目標が明確に定められており、校務がやりやすい。
学生が総合的に評価をして、良い学校であると誇りをもつようになった。
資格取得、地元就職などに、教育効果が現れてきている。
大会やコンテストでの実績やフェアの参加により、地域での本校の評価が少しずつ高まってきている。
全般的には落ち着いた教育環境となってきた。
学校の知名度が上がってきていると感じる。

入学から卒業までに大きく成長する学生が多い。
卒業生の職場での評価により、求人数が増えている。
今までの改善方策が実行されており、学校が良くなってきている。

【学生】

学校の目標、人材育成像は明確で、それにそったカリキュラムが編成されている。
この評価アンケートをすることで学校の方針や学科の目標など改めて見直すことができた。

将来を見据えた教育方針、進路指導が適切に策定されていると感じる。

資格取得体制や先生方が大変いい学校なので、いろいろな人に知ってもらえたら良い。

医療事務関係の検定を多く取得できるので、進路の選択肢が広がる。

先生方が一人一人のレベルに合わせて授業の指導をしてくださるので、検定に向けてみんなのやる気がでてきているのが分かる。

医療事務の資格だけではなく、他の資格も取得ができるのでよい。

設定された目標に向け進んでいると常々感じる。特に資格取得がそれである。

総合的に見て、よくできていると考える。課題が何一つないとまではいかないが、重大な課題はない。移り変わる社会のニーズに対応し、変えるべき所、残すべき所を見極め変革する。それこそ、最も重要な課題になってくるはずだ。

教育理念や目標を見る機会が多くなった。

この自己評価アンケートをしたことで、いろいろな目線で学校をみることができた。

学園祭や一日バス旅行など、生徒や先生が楽しめる催し物が充実しており、スイッチのON/OFFがしっかりしている学校だと改めて感じました。

教育環境については施設が人数に対して少し小さいかなと思いました。

不思議な髪色をした人が数名いるが企業からの印象は当然よくないだろうし、来年、再来年に就職活動をする者に悪影響が及ぼす可能性があると思われる。大学と違い就職までが早いので服装や髪型、色等の指導は良い印象を与えられるようにやるべきではないかと思った。

パソコンについても全くわからない状態で入学したが、設備や先生方のおかげで、たくさんことができるようになった。

毎日楽しく学校に通うことができました。卒業したくないくらい学校大好きです。